

訪れる人も

暮らす人も



花が美しいこまつがみんなを楽しくする

北陸の玄関口である小松空港や小松駅を出ると、色鮮やかな花壇の花々が目を引く小松市。市民共創でつくるフラワーロード「勸進帳の花みち」の歓迎で、小松市が花のまちであると感じていただけるのではないのでしょうか。

小松市は、歌舞伎勸進帳の舞台となった安宅の関や、那谷寺、粟津温泉のほか、2011年に環境王国の認定を受けた絶景木場潟と、そこから望む霊峰白山など、先人から受け継いだ自然や文化がたくさんあります。

花の魅力を活かす



(日本花の会HPより)

人が出入りする場所などにひと鉢の花が飾られているだけでも気持ちが落ち着きます。個人の庭で丁寧に手入れがされ、きれいに咲く花を見て、感動しない人は少なくありません。

花がもつ魅力は、見て美しくきれいなだけではなく、まわりの風景と一緒にすることで魅力が何倍にも高まります。

❁ 美しさ、華やかさ、香りを肌で感じる

花には私たちの五感を奮い起こさせ、魅了する美しさや華やかさ、優しさ、香りがあります。これらを活かすことで多くの感動が得られます。

❁ 季節の移ろいや自然を身近に感じる

花や緑を育てることで、季節が感じられます。私たちが自然の一員であることや環境を思いやる気持ちを思い起こさせてくれます。

❁ 成果が早く現れる

種をまいてからわずか数ヶ月で花を咲かせます。短期間で花壇をつくることができます。季節毎の花の変化を楽しみに人が訪れ、地域が賑わいを見せ、まちの活性化を促します。

❁ 情操教育の一環として

子供達が四季折々の花を育てることは、草花を愛しむ心を育み、生命の尊さを学べる絶好の機会です。人や生物への優しさにつながります。子供のころの体験や経験、感動した事は、いつまでも心に残ります。

快適な
生活環境づくり

地域の花や緑を大切に育みながら、潤いと豊かさが感じられる快適な生活環境づくりや風景づくりに取り組んでいる。

松の育樹活動(安宅)



小松運動公園
バラ植樹(オーナー制)



木場潟公園「桜守」活動



緑を育む活動

一級河川梯川美化活動



こまつ水辺クリーンデー

木場潟美化活動



環境美化の取り組み

美しいまち並みや風景づくり



勸進帳の花みち(国道360号)

中海ロードパーク～
小松空港まで約10km

木場潟周辺と主な幹線道路など新たな禁止区域や
広告旗の設置など景観規制範囲に追加



県道根上小松線(大川町)



木場潟公園



松任町(こまつ町家)

環境保全と身近な自然を大切にした取り組み

う川古代桜(鶴遊立活性化委員会
・こまつ日本花の会)



木場潟再生プロジェクト



オニビシ、ガガブタ、アサザなど



日用苔の里整備推進協議会



松岡町千恵子桜保護活動

エコロ
ジー

環境にできるだけ負荷をかけないような取り組みや身近な自然を大切にした取組をすすめています



花
に
よ
る
表
現

まちらしさ(地域性)の演出に花をうまく生かし、歴史的・文化的資産を継承しています

地域の気候風土を生かした花の表現

沢町十二ヶ滝と桜並木



ものづくり発祥の地
遊泉寺銅山ものがたり
パークのシャガ

耕作放棄地を活用し
た瀬領町約30万本の
ヒマワリ畑



梯川堤防沿いのヒガンバナ



津波倉町1万㎡のコスモス畑

中海町ロードパーク
ブッシュウジヤマ古墳
群とシバザクラ
(中海資源保全会)



ハスにまつわる民話が残る木場潟公園



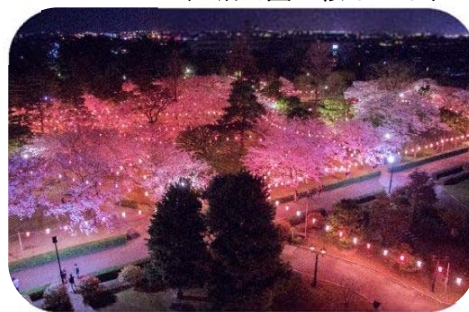
布橋町のミズバショウ
(小松市指定文化財)



高校生華道部の花装飾「曳山華舞台」
で歌舞伎のまちを発信



芦城公園の桜ぼんぼり



小松城三の丸跡に作られた芦城公園



正蓮寺町カタクリ

地域の資産を生かした花の表現

花や緑が周辺の風景や街並み、建物と調和し、花の配置や色使い、
季節の演出で四季を楽しむ。

花と周辺の景観の調和



梯川沿いハマダイコン

小松空港と
空港通りのおもてなし



JR小松駅
「花灯り」「花手箱」



花の デザイン

花のコンクール受賞花壇



西軽海町



有明町

オープンガーデン



八幡

花壇の色具合や草花の配置

季節感豊かな花の演出(まちなかエリア)



姉妹都市ベルギー
ビルボード市から
寄贈された
友好のバラ園
「V ロード」

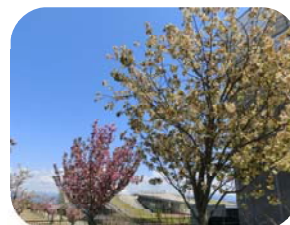
サイエンスヒルズこまつ屋上庭園
オミナエシ



かかしロード



JR小松駅周辺 (こまつの杜)



ヤエザクラ

小松運動公園バラ園
夏はバラフェスこまつ
秋はバラ鑑賞会



栽培状況

環境に配慮した
取り組みや、花
の生育特性を考
慮して草花を植
えています

環境にやさしい栽培



保育園リサイクル土
を活用し花壇づくり

し尿処理施設で発生した余
剰汚泥は、乾燥汚泥肥料と
して花壇づくりに活用
また、地域の生ごみを堆肥
化する循環を推進(民間)



雨水を活用した花壇
(個人オーナー花壇)



56年を超え栽培技術を継承
する小松市菊花協会

子どもたち作るあさがお
のグリーンカーテン



明後日あさがお活動

生育特性を生かした栽培

フローラルこまつでは、市民・企業・行政がまちづくりのパートナーとなり、公共性の高い場所や地域に向けた場所での花や緑の活動を推進
また、活動は個人にも広がりを見せ、オープンガーデンや講習会など積極的な参加が市内全域で展開されている

活動状況

地域社会との連携と役割分担



推進団体登録 585団体
(R3.3月末)

個人会員数 921名 (R3.3月末)



個人会員証



わがまち美化ピカ隊とは、道路、公園緑地その他公共の施設において地域住民や企業等団体とパートナーシップにより、環境美化の促進を図るもの



わがまち美化ピカ隊参加団体
277隊 (R3.3月末)

こまつオープンガーデン
2016年～ 参加56ガーデン (R3)



2020東京オリパラ練習会場応援花装飾「水の女神」

小松の各節目を花の「オブジェ装飾」で歓迎する



小松市政80周年記念
お祝い花装飾「竹取物語」

地域のこども園の子どもたち



花咲く庭のオープンガーデン



学

☆園芸スクール

主体的な取組やその姿勢



☆花の育て方基礎講座

習 ☆園芸学び会

専



SNS活用の講習会・情報発信



(研修会・講習会)

作

☆ガーデニング
ワークショップ

☆花楽校☆



子どもたちの取り組み

こまつの杜「花育」

春

日本花の会の樹木医の先生と子供たちが種から育てる花を学びます



オープンガーデンで子供たちと寄せ植え体験



フラワーロード整備「勸進帳の花みち」

緑の少年団(市内23団)



地域のこども園の参加



秋



活動の継続性や向上性

花のコンクール大賞 2014年～

カブッキー賞



お茶を飲みながら活動者の交流を深める



キッズ花講習会
(花のイベント)



木場潟1周6.4kmの桜回廊
市民・企業参加により370本桜植樹



新幹線から木場潟の桜リング眺望



事業者もフローラルこまつを応援する



散水車2台の寄付
「花みずき号」
「おひさま号」



市民共創

企業敷地にあるお庭を「オープンガーデンこまつに参加」



福祉施設の癒しガーデン

企業のバラ庭を地域に開放



リーダーシップの発揮

花のまちづくりのリーダーが活躍されています。

誰でも楽しく参加できる花や緑の活動で、花と緑が美しいまち「フローラルこまつ」を支えています。

木場潟フローラの会



小松能美建設業協会
「花とふれあいの未知づくり協議会」



NPO法人
みどりのこまつスクスク会



小松友好バラ友の会

感謝

こまつ日本花の会



小松市緑の少年団【23団】



木場潟再生プロジェクト
水生植物の「楽園」活動

公共性や地域に向けた場所での活動

JR小松駅(コンコース)



高等学校華道部との花活



ガーデンオーナー交流会



こまつ町家(お旅まつり)



小松の観光大使
「こまつ姫御前」が
花のまちをPR

バラフェスこまつ

木場潟公園
花菖蒲まつり



地域の 活性化

花と緑のまちづくりの活動を通じて、地域の振興や活性化などにつながる効果が得られる

花と文化の振興 芦城公園「藤見の会」



和菓子づくり体験



呈茶体験
(高等学校茶道部)



野外花展



花展「花文化」



フローラルカブッキー

産業(経済効果)や文化振興

こまつ80スクエア プロジェクションマッピング



デジタル × フローラル



オープンガーデンツアー



他市からのオープンガーデン視察



秋バラ鑑賞会
「イルミネーション」

花の交流 バラフェスこまつ

小松運動公園バラ園
約1,400 本



人的交流(域内外の交流)

花と緑による快適な空間をつくり 2030年のSDGs の実現を目指す

花水樹ミッション

施策

基本理念

花と緑が美しいまちを次世代に引き継ぐ

気品と風情あるまちを市民共創で創ります

花



市内街地の花と緑

花と緑でこまつの
景観を高めます

市郊外の花と緑

花と緑で季節感あふれる
フラワーロードをつ
くりまします

I 花のあふれるまちこまつ

- ① フローラル重点地区の設置
- ② フラワーロードの整備（重要路線、農村景観）
- ③ 地域花のブランド化
- ④ オープンガーデンの推進
- ⑤ 花美・花活で健康を促進

II 公園・緑地を市民みんなで創造

- ① 花と緑の潤いでオープンスペースの利活用
- ② 地域の集会施設の緑花推進
- ③ イメージアップを高める企業緑花の推進
- ④ 福祉施設などの緑花推進でフラワーセラピー
- ⑤ 四季の移ろいを感じる特徴ある公園づくり

III 花や緑に親しむ教育施設

- ① 地域と学校が連携した花壇での花育の推進
- ② 通学路等の緑花推進で安心・安全のまちづくり
- ③ スマートガーデニングを導入した花壇整備

IV 花の名所の保全

- ① 文化・歴史や由緒ある地域の花を選定・保全
地域の花〔桜、藤、カタクリ、水芭蕉、ハス、推奨花など〕
- ② 花と緑のツーリズムの促進

水



河川沿線

木場湯公園周辺

水郷・自然と調和した
花と緑が潤う景観をつ
くりまします

V 花木による水辺空間の魅力アップ

- ① 豊かな桜並木と調和する水辺づくり
- ② 白山連峰や木場湯と調和した農村景観の保全
- ③ 木場湯花の彩り整備
- ④ 木場湯や周辺水路の水生植物の保全
- ⑤ 地域の桜守活動の推進
- ⑥ 水郷のまちこまつミズベリングコースの充実

VI 自然豊かな水辺空間の保全

- ① 川辺等の保全再生と学びの場
- ② 生物多様性の尊重
- ③ 木場湯や河川の水質負荷低減
- ④ 耕作放棄地ゼロから生まれる花畑の推進
- ⑤ ごみ・雑草ゼロ

樹



次世代へ引き継ぐ新しい花
の名所をつくりまします

四季折々の季節を感じる花
木の植栽を展開します

VII 緑のあふれる住環境

- ① 30年後の未来に送る小松らしい記念植樹
- ② 新たな花の名所づくりのための花木植樹
- ③ 温もりのある公共空間の緑化推進
- ④ 企業によるリラクゼーション空間の緑化推進
- ⑤ 季節感を楽しめる街路樹植栽と適正管理
- ⑥ 花と緑の地産地消
- ⑦ 貴重な銘木・巨樹の保存・保全

VIII 環境王国こまつの里山再生

- ① 眺望景観に配慮した里山づくり
- ② 緑と紅葉のコントラストによる森林活動

協



次世代を担う
「花育活動」を進めます

花と緑の人材育成を進め
市民力を強化します

IX 花や緑を大切にする人を育てる

- ① 花に係る団体の組織のネットワークを創設する
- ② 次世代を担う緑の少年団の育成・拡充
- ③ わがまち美化ピカ隊の拡大
- ④ 栽培や管理技術など花と緑の学習・研修会
- ⑤ 学校・PTA・地域が一体で子供の花育を推進
- ⑥ 企業や地域の美化ピカ隊参入の推進
- ⑦ 花ガイドや花育リーダーを育成

X 花や緑の啓発活動

- ① ボランティア活動団体への支援
- ② 情報発信・情報交流（花観光マップ）
- ③ 活動に対する表彰制度の創設
- ④ フローラルこまつの「じ・さい・ふく」の設定
- ⑤ 地域や企業と連携した花と緑のマネジメント推進

花 緑

まちづくりの歩み

1994
(平成 6) 年

- 緑化推進事業
(生垣設置助成制度策定)

1998
(平成 10) 年

- 緑の基本計画策定

2000
(平成 12) 年

- フラワータウン推進事業
(花苗配布制度策定)

花と緑の潤いプラン策定 ●

2011
(平成 23) 年

全国さくらシンポジウム ●
フローラルこまつ花水樹協の策定
(花壇づくり事業助成金制度策定)

2013
(平成 25) 年

第66回 全国植樹祭 ●
(木場潟主会場)

2015
(平成 27) 年

全国花のまちづくりコンクール
市町村部門「奨励賞」

フローラルこまつ2020策定 ●
[第2期推進プラン]

2016
(平成 28) 年

全国花のまちづくりコンクール ●
市町村部門「優秀賞」

2019
(令和 元) 年

子どもたちと地域の未来を考える ●
花と緑のまちづくり全国首長会 設立

フローラルこまつ
第3期推進プラン策定 ●
東京オリンピック・パラリンピック

2021
(令和 3) 年



2013年8月に策定した「フローラルこまつ」は、先人が残してくれた豊かな自然を生かして、花と緑あふれる美しいまちを市民総参加で創り、次世代へ引き継いでいこうという取り組みです。
花と緑の取り組みや参加の方法を明確に示し、「藤見の会」「バラフェスこまつ」など花と緑のイベントを通じ、より親しみや身近に感じてもらえることになった。
また、市民・企業・専門家・行政が花と緑のパートナーとなり「人づくり」「体制づくり」「モデルづくり」に多くの方が参加し、現在、推進団体584団体、個人会員915名が登録され活動しています。
活動の喜びは、2015年5月木場潟公園にて、天皇皇后両陛下をお迎えし開催された「第66回全国植樹祭」や2016年「曳山250年本祭」、2018年「粟津温泉開湯1300年」など様々なイベントや大会で全国からのお客様を花いっぱいのもちでもてなすことができ、本市の市民力・地域力の高さをアピールすることができました。

市民共創で取り組む「フローラルこまつ」花・水・樹



市民共創でつくる花と緑が美しいまち

「花と緑のまちづくり」は、地域の人とひとが関わり合いながら取り組むまちづくりである。これからのまちづくりの主役は市民である。市民、企業、行政、専門家、各種団体などが互いに役割を分担しながら協働（パートナーシップ）を大切に花で美しいまちにし、子供たちのためにいつまでも愛着と誇りの持てるまちを30年後の未来に引き継ごう。

- ・財政難のなか、小さな負担で効果的な事業の展開
- ・地域づくりの新たな取り組み
- ・地域の自立力向上
- ・市民の健康づくりをサポート
- ・次世代に引き継ぐきっかけづくり

市民

学校・病院・商店会
町内会・NPOなど

- ・満足感、達成感
- ・心の豊かさの獲得
- ・地域への誇り、愛着
- ・親しい知人、友人を得られる
- ・子供たちへの環境教育
- ・地域コミュニティの再生

行政

市・国・県
協会など

企業

建設・製造
不動産・生産農家
・JA・サービス業など

専門家

樹木医
・造園業組合
・花苗生産者
・日本花の会
・各種協会など

- ・企業イメージの向上
- ・社会貢献、地域貢献の実現
- ・周辺住民や行政との一体感
- ・地域ネットワークの拡大
- ・企業施設の有効活用
- ・従業員の活性化効果

SUSTAINABLE
DEVELOPMENT
GOALS

花のまちづくりの進め方

(日本花の会HPより)

花のまちづくりは、住民の誰もが参加できる楽しい活動です。地域住民が世代を越えて協力し、住民と行政との協働を進めることでコミュニティが強くなり、より広がりのあるまちづくりに発展します。



自宅の花飾りから始める

最初の一步は、自宅前の花飾りです。小さなプランターでも構いません。小さくても美しく飾ってあれば、人の心を和ませる力があります。それが広がると大きなパワーにつながります。

近年、オープンガーデンが日本各地で広がりを見せ、こまつオープンガーデンも年々参加者が増えています。この仲間がまち中の花飾りに取り組むと、質の高い花飾りが実現し、これを住民が真似てまち並みがどんどんきれいに变化します。



住民同士の連携と広がり

小さな共有スペースを地域住民が一緒になって楽しみながら花を植え、会話をしながら飾る。こんな単純な作業だけでもコミュニティの輪が広がり、地域全体が花できれいになります。住民同士の連携を意識して活動するようにしましょう。



協働とパートナーシップ

花のまちづくりは、地域の住民と行政が協働で行うことで効果が顕著に現われます。また、住民団体や企業などがパートナーシップで連携して進めることで新たな発展にもつながります。



子どもの参加

これからの地域社会を担う子ども達も一緒になって、花のまちづくりを進めましょう。子ども達に優しい心が育ち、自主性や協調性、自信、地域への愛着心などが育まれます。



安心・安全なまち

花のまちづくりを通じてコミュニティが発達し成熟すると、まちの防犯にもつながり、安心して安全に暮らせるまちになります。



❁ 花育の意義について

花や緑の持つ多様な機能に着目し、花や緑を教育、地域活動等に取り入れる取組である「花育」の推進を図ることは、幼児・児童期の成長期において、花と緑に親しみ・育てる機会を提供し、やさしさや美しさを感じる情操面の向上等が図られ、また地域活動においても、花や緑を介した世代交流等により、地域のつながりを深めることが期待されています。

❁ 花育の効果



1.感謝する気持ちを育む

身近な花や緑に親しむことによって生命あるものに触れる感動を体験し、植物との関わり方を学びます。それは自己と他者との立場・あり方を学ぶことにつながり、花や緑の外観に関心を持つだけではなく、花や緑を大切なもの、愛おしいもの、かわいいものと思う気持ちを育みます。このことは花や緑の存在が人に与えてくれるものの大きさを感じ、感謝する気持ちにつながります。

2.やさしい気持ちを育む

花や緑の価値を知り、それぞれにふさわしい扱いができる感性と方法が身につく効果が期待できます。花や緑に関わる中で、花や緑を介して人と自然との関わり、生命あるものへのやさしい気持ちをもつことができれば、子供たちにとって花や緑を知ること以上の価値が得られます。

3.探究心や創造力を育む

植物の栽培を通じて、育てるため、楽しむための創意工夫をし、技能、知恵等を身につけるとともに、植物を素材として活用した多彩な創作活動等を通じて、創作の喜びを感じ、豊かな創造力を育てます。

4.人とのつながりを作り、広げる

花や緑の栽培や装飾の作業を共にすること、中でも普段の生活ではその機会があまり多くない高齢者、花と緑の専門家（花の生産者、フローリスト、フラワーデザイナー、グリーンアドバイザー等）との共同作業は、新しい発見や人とのつながりを作り、広げるという効果が期待できます。

5.波乃効果への期待

幼児・児童期の花や緑との様々な関わりは、子供だけでなく、家族やその友人、近隣の人々等周囲にもよい影響が及びます。結果的には、子供を取り巻く多くの人も多様なかたちで花や緑に関わることにつながります。



こまつの杜「花育活動」

